

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271600544		
法人名	医療法人社団 昭桜会		
事業所名	グループホーム サクラビア成田		
所在地	千葉県成田市寺台251-20		
自己評価作成日	令和3年1月14日	評価結果市町村受理日	令和3年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/1z/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	令和3年2月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

千葉県の中核都市として東西南北様々な風情があります。西に印旛沼白鳥の飛来を見に行ったり南には成田空港と桜の花の時期のベストマッチを見たりと又、中心部にある成田山新勝寺もあり一年を通しご利用者様・ご家族様とスタッフ間で共有し日々話し合いに努めています。1人1人の個性を生かし大事にしていく…穏やかに過ごして頂く様努めて参ります。

事業所の良い点として①「食べたい物には応え・朝の挨拶ではおはよう名前を呼び・笑えるジョークを云って和むように」努め、その人の生きざまを尊重して今までやってきたことが継続出来る対応を心がけている。管理者自から先頭に立って面白おかしく笑顔で話をして利用者が話しやすい場面づくりをし、職員は良い点をマネシ・やり方を盗んで自分の色が出るように心がけている。②月2回訪問診療と終末期のあり方について早い段階から家族と話し合い、重度化時には入院となっているが、危篤状態で救急搬送した人が病院でなく家族の了解を得てホームに戻った事で回復している好事例も出ている。③管理者は、家族と話をして利用者の要望を出来る範囲で応え、この積み重ねが家族アンケート結果に表れホームの取り組みに自信を深めている。若い職員には分からない事は教え自覚を促し、チーム制も検討して若い人の育成に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新規スタッフに対し今までケアをされた施設の色を単独で行い共有していないところもある。多少の不満もあるが管理者自ら色をだしつなげ共有している	「おもてなし、快適さ、楽しさ」の理念を掲げ、「食べたい物には応え・朝の挨拶ではおはようと名前を呼び・笑えるジョークを云って和むように」実践に努めている。管理者自から先頭に立って面白おかしく笑顔で話をして利用者が話しやすい場面づくりをし、職員は良い点をマネしやり方を盗んで自分の色が出るように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	敷地内の歩道・砂利道・雑草取りと近所の方と気がついたら率先し行動交流している	新型コロナの発生により地域行事、福祉会館での催し、ボランティア活動も出来ない状況となっている。地域のごみゼロ運動に参加し、敷地内の歩道の枝や雑草を取り、砂利の片付け等を近所の人と一緒にやり交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染の影響で貢献出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年はコロナ感染の事もあり日にちも合わず実行出来ていない	コロナ禍で地域包括、区長、家族が参加しての運営推進会議は開催されていない。家族には行事の写真と文章を入れてホームでの利用者の様子を伝えている。また、家族から好意の果物、野菜、落花生等の差し入れがあり皆で食べて喜んでいる。	運営推進会議を书面開催として「利用者の生活の様子や行事、カンファレンスでのケアカンファの内容、研修内容と資料等」を郵送し、アンケートも行って意見を求め、取り組みの理解を深める事が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今回、栄町より入居依頼あり栄町役場に行くこともあり当施設にも出向いてくださり情報交換している	市の担当課とは利用者変更に伴う空き室情報の報告、区域外の入居希望者の書類提出等で協力し入居となっている。また、メールでの消毒液等の配布は取りに行き活用している。グループホーム連絡会はリモート開催され、コロナ対策等について意見交換をして連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今正しい知識を共有前傾姿勢(前のめり)また、弄便もありご家族様には報告している(紙面にて了解を得る)拘束しないようにと取り組んでいるが…	身体拘束廃止についてマニュアルを読み、カンファレンスで話し合っ確認や再発見もして身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。利用者にも漏便等があり、つなぎ服の着用は家族の了解を得て行き報告をして改善に取り組んでいる。	身体拘束委員が開催されていないので、カンファレンスでの取り組み内容を議事録としてまとめることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症もあり今後の課題とともに話し合っていく 研修等につき全てキャンセルとなる 内部での資料をカンファレンスの際渡す		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加出来ておらず、出来る体制に取り組んでいきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様に理解して頂けるように、その都度お話をさせて頂いている さらに資料とするものが必要であるとしたならばコピーしお渡ししている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族がいらした時や電話での生活状況を報告、その都度意見を言っておさる	コロナ禍で家族は面会が出来ない状況となっているので、電話連絡をして利用者の生活状況を報告し意見・要望も聞き、利用者へ電話を代わって声を聞いてもらい安心となっている。日常の利用者を観察して介護日誌に記録と申し送りをし、家族にも報告をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度意見を言っておさるので場を設けていないが、新ためて設けると本音が言えず休憩時間の時やフラットな時など気軽に声かけしている	介護日誌の申し送りやカンファレンスでは職員の意見が反映され、介護日誌では「特に変化なし」ではなく気づいた事は必ず書く事を徹底して共有している。管理者は普段から職員に話しかけて聞く事を大事にし気持ちを汲み取り良い関係が出来ている。カンファレンス時の研修は資料を配布・説明し「どの様にケアをしているか」確認をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者：職員と隔たりなく1人ケアスタッフとして同じように対応するよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等 講演会 この年は厳しく市からの回覧紙 福祉館からの情報版等の中で抜粋しコピーする 確認サインを頂く		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的開催される連絡会がコロナ感染でリモート会議となっている 相談ごとや処理対応について電話等による解答を頂いたりしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	対話行動を通じ出来る限り本人の安心を確保するためご家族にも協力を頂き良い関係作りに努めている常日頃より生活圏の様子を写真に撮り ご家族様に手紙を添え送っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入段階だけでなく、状況に応じて御家族様と連絡を取り合いながら、関係構築に努めている。前年度より話がしやすい関係も出来ている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人・御家族様と対話を通じて、必要としている支援に対して、柔軟に対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「おもてなし・快適さ・楽しさ」の根本理念の下、日々状況が変わっていかれる御本人様の状況を観察・確認しながら関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状として感染拡大の為面会のご遠慮して頂き、どうしても…という場合各入口ガラス越しでの対面となっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記同様 玄関ドアに1階2階と面会に対してのご配慮を貼り紙でお知らせしている	新型コロナの発生に伴い知人や家族の訪問が出来ない状態となっている。家族には電話や写真を送付して状況を伝え関係が保たれている。利用者がストレスを溜めないためにも散歩、レクでは色をつけ変化を持たせ、昔の歌を流して口ずみ、ホームが馴染みの場となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活環境の違いや性格を考慮し孤立しない様無理はせずに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様により深くかかわりをもととされていない場合が多い 臨機応変に対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向可能な場合 話し合いケアに反映する様努めている	入居時に利用者の生活歴・趣味・要望をフェースシートに記録して共有し、入所後は日常生活の様子や変化を介護日誌に記録して把握している。カンファレンスではケアプランの確認と家族からの要望を反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御家族・御本人様の生活歴・サービス利用経過等の状況を確認し、把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に日々の状況を記載しており、状況把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人・御家族の意向については意向確認書の 取り交わしを基本に、必要に応じて話し合い、介護計画に反映するように努めている。	カンファレンスは家族からの要望、職員やケアマネージャーの意見を基に話し合っケアプランの内容を確認している。モニタリングを行って評価し、が月毎に見直し、変化時には訪問医の意見を反映し家族の了解を得て変更している。	介護日誌は利用者の日常の様子や変化が良く記録されていますが、ケアプランに添った内容の記述が少なく感じますので、ケアプランに添った記述を心がける事が望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・業務日誌を通じ、カンファレンス・申し送り時に個々の情報を共有し介護計画の見直しに活かしている 別にスタッフ間の連絡ノートを作り共有 サインをもらう		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じた柔軟な支援・サービスが提供できるように心がけている また、スタッフ間で違ったサービスをせずある程度の統一性にも配っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	思うように発揮することが出来ずただ安全な生活支援のみとなる 今後に努めていく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在 訪問診療を行っておりご家族様に助かっていると・不穩に思うことがある場合はなんでも聞いて欲しいとドクターから言われている 訪問診療もだいが落ち着いてきたので訪問歯科も始めている	かかりつけ医の受診は家族が対応し薬はホームで管理している。訪問診療は以前からの外科病院もあり3か所から月2回行われ、24時間365日の連絡体制が出来ている。体調変化時には何時でも往診があり、急変時には医師の指示により救急搬送も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師がいない為、母体のクリニックに相談しながら、適切な受診・医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナの関係で入院の際ご家族も面会出来ず状態退院についてご家族様が行けない時は、施設の方で対応している その後結果報告している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について早めの段階からご本人の状況変化をお伝えし共用していけるよう努めている入院についてもその後の話し合いをしている	法人として看取りは行わない事を説明している。食事が減り呑み込みが悪くなると往診時に看てもらい、終末期のあり方について早い段階から家族と話し合い、重度化時には入院となっている。また、危篤状態で救急搬送した人が病院でなく家族の了解を得てホームに戻った事で回復している好事例も出ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の研修・の訓練が行えていない 研修も中止になったり思うように実践につながらない 訪問診療のドクターや看護師に処置・方法を聞いている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	救命講習は定期的を受講できていない。コロナ感染拡大による為、災害訓練に対しても経路図を回覧としてコピーの閲覧のみ運営推進会議は出来ていないので紙面にて状況をお伝えする	防災訓練は手順書に沿い担当職員を決めて避難誘導、消火器訓練が行われている。また、防災ビデオを見て意識づけが行われている。コロナ対策としてカンファレンスでの説明や掲示をして周知し、衛生用品を活用して防止を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コロナ感染で外出もせず又ご家族様も面会のご配慮を頂いている中でストレスもあり、暴言を言い放つ事もあり スタッフはそのような対応に対し優しくケアをする	認知症の行動を理解し、意思が通じなくても是認し優しい声かけをして心配りをしている。立ち上がり時のふらつき等はしっかりと見守り、危険予知はヒヤリハットや介護日誌に記入してカンファレンスで話ってケアに活かしている。また、排泄・入浴・オムツ交換時にはプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表しやすいように、コミュニケーションを取りながら自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にすることと同じにそのように進まない日々もあり極力希望にそえるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者個々の希望に応じて、訪問美容院にきて頂いたり、衣服は本人と一緒に選んだりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	多少のお手伝いはお願いしやっています 常にご飯 麺類の為時々おやつ時にパン系を提供する	食事の時間には利用者はテーブル拭きやお茶おを入れて出来る事を行い、食形態もその人に合わせて工夫し、盛り付けは色合いを考え、食事量が不足の時は1品追加している。カフェを開催して和と洋の飲み物とお菓子を、ひな祭りではちらし寿司や飾りつけをして季節を感じ、食事が楽しみになる工夫をしている。また、水分摂取には力を入れて取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量の確認を個人記録に残している状態に合わせてスタッフ間で共有している フルーツ系やヨーグルトプリンなども提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々の状況に応じて、口腔ケアウエットや口腔ブラシ・歯ブラシにて毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている 毎週1回コップも含め消毒している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様1人1人の排泄パターンを把握し対応・支援している	個人毎の排泄パターンを把握して定時に声掛けをし、何回もトイレと云う人にも拒否はしないで支援している。排便状態を確認し薬の使用や食事・飲み物にも気をつけている。リハパンの人の臭いは気配りし、便失禁時はシャワー浴をし、全員の陰臀部洗浄を毎日行なって清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌の摂取や整腸剤・下剤の内服を利用者個々の状況に応じて対応し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日決まっているが体調不良・強い拒否など状況に応じ対応する 季節による菖蒲湯やユズ湯など入浴剤も使用し楽しんでいる	週2回の入浴は体調や気持ちに配慮し、拒否がある時は様子を見て優しい声かけや職員を替えて対応している。入浴は気持ちが良い「さっぱりしたよ」の声があり、1:1の入浴の時間はいろいろな話で盛り上がっている。全身を観察して打撲等は個人記録を見て確認し処置が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活習慣・その時々身体状況を考慮し、安眠・休息の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表ファイルを作成し、職員が常時確認できるように努めている 薬の説明書のコピーを整理、薬剤師と相談アドバイスを頂いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴を考慮しながら、洗濯物を畳んだり干したり、庭の手入れなどもスタッフと一緒にしない支援している 花植えなど作業風景など写真を撮りご家族様に送っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望を訴えられる方が少なくなってきたが、利用者個々の状況を把握し、希望を考慮しながら、午前中天気の良い時間日光浴をしている1階 2階合わせ実施している	コロナ禍で地域の行事や外出企画が出来なくなっているため、天気の良い日には庭に出て散歩や日光浴、テーブルを出しておやつとお茶を飲み、桜の木の下では花見をし、ホームセンターに行って花を買い、プランタンに植え水やりをして気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理をできる利用者がおらず、施設にて金銭管理を行っている 購入する際ご家族様に了解頂き100円ショップ内1個～2個を買わせて頂く 今年にはコロナ感染の事もあり外出していない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙については、御家族や・知人の同意を得ながら支援を行っている。電話については、同意を得られていない為、支援はしていないが、状況に応じて柔軟に対応できるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光は特に見られていない。季節感がわかるような折り紙を使用し飾っている 又、居室内にも折り紙の作品 カレンダーも置き対応している	リビングにはテーブルやソファを配置し「ルールに沿った生活を利用者に求めないように」して、自由にソファで横になり、のんびりとゆっくりと過ごさせている。職員は利用者それぞれの好きな状況を見極め、折り紙や塗り絵の制作物作り、レクではトランプやボール投げ、一緒に話を聞いて笑って楽しめる場となっている。また、市の作品展にはいつもと違った作品作りをして出品し、展示され家族や他施設からも好評を得ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや自室を自由に行き来している 1階や2階とのふれあいを気兼ねに行き来できるようにスタッフ間で了解し合っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだものを自由に持ち込んで頂き、安心できる環境を作っている。	居室には収納タンスやテレビを持ち込み、写真・カレンダー・制作物を飾っている。また、本や洋服の雑誌、旅行のパンフを持ち込み見て楽しんでいる。掃除を毎日行い、衣類の整理や衣替えをし、床には物を置かないようにして導線が確保されている。夜間巡回では夜勤者が見えるように少し戸を開けて見守り安全の確認が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内のバリアフリーや手すりの設置にて出来るだけ安全で自由に生活できるようにサポートしている		

目標達成計画

作成日: 令和3年 2月 27日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		消防署の定期点検は実施されたが、防災訓練が実施できていない。	年2回防災訓練を実施する。	年間計画を作成し、消防計画・防災マニュアル・自衛消防組織図を見直しながら、防災訓練を実施していく。施設内において2/23実施	12ヶ月
2		運営推進会議が実施できていない。	運営推進会議を定期的を開催する。	年間計画を作成し、御家族・地域・行政の協力体制を構築させて頂き、運営推進会議を開催していく。現状を包括支援センター様・寺台区長様へ提出(3月末まで)	12ヶ月
3		職員の研修への参加が出来ていない。	職員が研修へ参加出来る様支援していく。	勤務状況を考慮しながら個々のスキルアップに向け取り組む。	12ヶ月
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。